

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人遠山丙市の上告趣意（後記）第一点は、名を憲法違反に藉りその実単なる訴訟法違反に帰し（そして、原判決は旧刑訴四〇五条に従つたもので所論の違法も存しない。）、同第二点は量刑不当の主張に帰するから、いずれも刑訴四〇五条に該当しない。また記録を精査しても、同四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて刑訴施行法三条の二、刑訴法四〇八条により主文のとおり判決する。

この判決は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二七年二月一四日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	斎	藤	悠	輔
裁判官	沢	田	竹	治 郎
裁判官	真	野		毅
裁判官	岩	松	三	郎